

## ◆ 今週のコメント

- ・ 梅毒の報告が2例(20歳代女性2例)あり、いずれも病型は早期顕症梅毒、推定感染経路は異性間性的接触です。本年の累積報告数は11例となっています。近年、梅毒の報告数は増加し続けており、女性は20歳代の報告が多くなっています。梅毒の感染経路、症状、予防等については下記URLを御参照ください。  
○梅毒に関するQ&A(厚生労働省ホームページ)  
[http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html](http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html)
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が2例(60歳代男性1例, 80歳代女性1例)あり、本年の累積報告数は23例となっています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.38(58例)となり、前週1.02(43例)よりも増加し、京都市過去5年平均値を上回っています。

## ◆ 今週のトピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>

- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症は平成25年4月1日に5類全数把握疾患に追加されて以降、報告数は全国及び本市において年々増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 5例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性なし  
【1月以降の累積報告数 84例(肺結核 45例, その他結核 8例, 潜在性結核感染者 31例)うち喀痰塗抹陽性 19例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 23例】
- ・ 五類:梅毒(早期顕症)2例【1月以降の累積報告数 11例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点42, 眼科定点10, 基幹定点1)

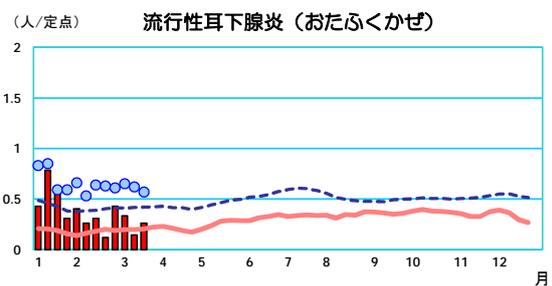
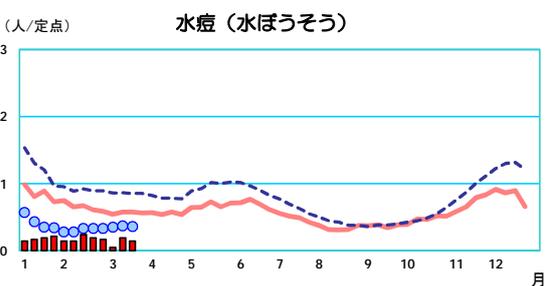
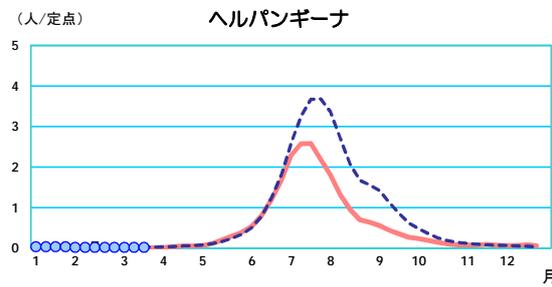
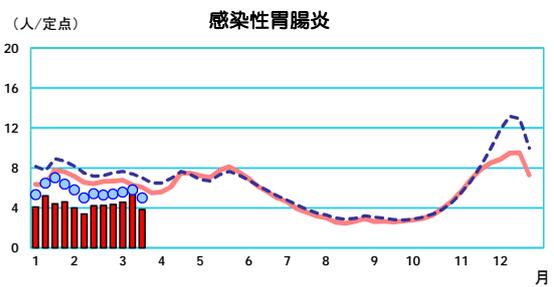
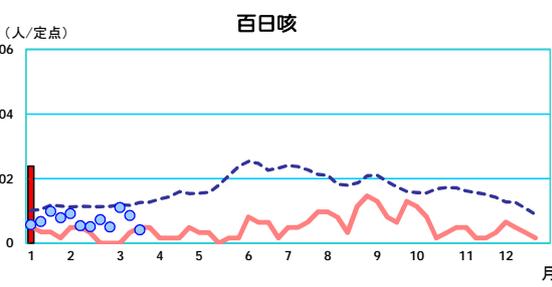
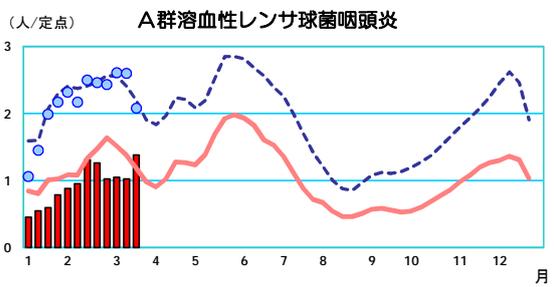
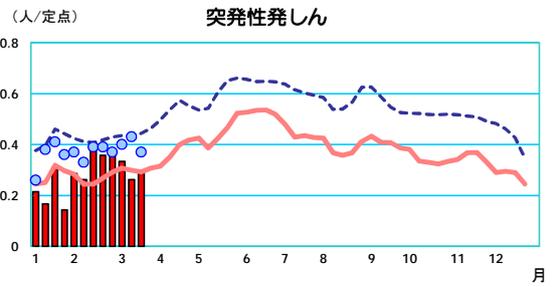
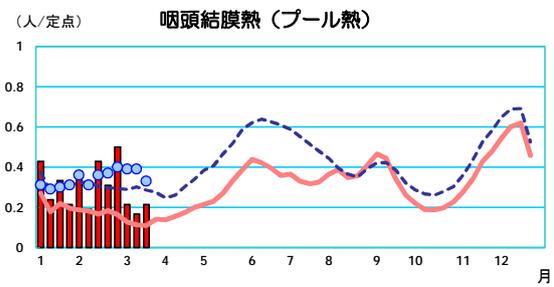
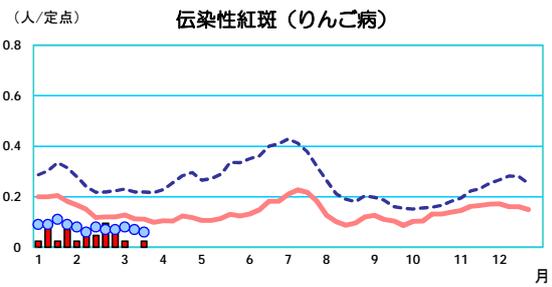
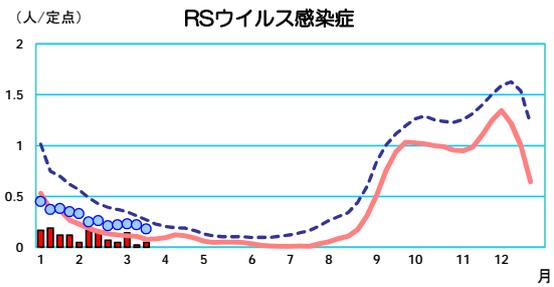
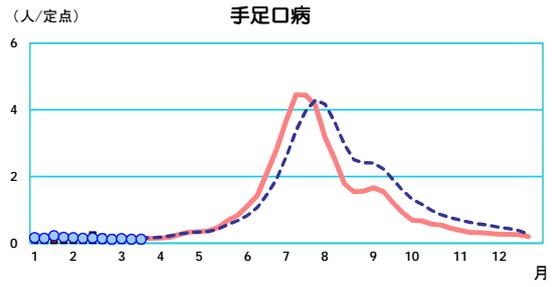
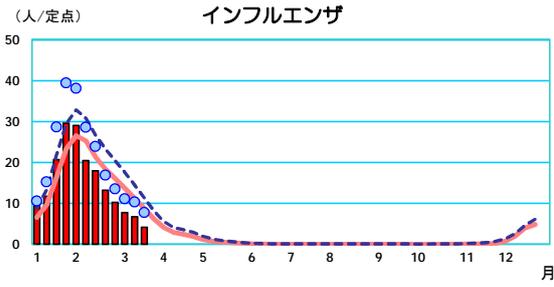
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	4.19	289
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.83	161
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.38	58
	③ 突発性発しん	0.29	12
	④ 流行性耳下腺炎	0.26	11
	⑤ 咽頭結膜熱	0.21	9
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>  
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成29年3月29日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成29年）



## 第12週(3月20日～3月26日)トピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>

侵襲性インフルエンザ菌感染症は平成25年4月1日に5類全数把握疾患に追加されて以降、報告数は全国及び本市において年々増加しています(図1)。本疾患は菌血症、菌血症を伴う肺炎、髄膜炎を主症状とする侵襲性感染症(本来無菌的な部位に菌が侵入することで起こる疾患)です。原因菌はインフルエンザ菌で、毎年冬場に流行するインフルエンザを引き起こすインフルエンザウイルスとは異なります。本菌は、菌を被う莢膜多糖体の有無により莢膜株と型別不能株に分けられ(表1)、一般に莢膜株の方が病原性が高いことが知られています。この中でもb型(Hib)がもっとも病原性が高く、とりわけ、5歳未満の乳幼児に感染することが多く、小児の敗血症や髄膜炎等から分離される株の95%以上がHibであるとされています(※1)。このうち、Hibによる髄膜炎を発症すると0.4～4.6%は亡くなると言われ(※1)、また、長期的に見ても予後不良な場合が多く、てんかん、難聴、発育障害等の重い後遺症が約20%に残るとされていることから(※2)、乳幼児にとっては非常に注意を要する疾患です。

本市の症状別割合をみると、菌血症及び菌血症を伴う肺炎が約9割を占め(図2)、年齢階級別では60歳以上が約6割を占めています(図3)。本市の乳幼児の報告数は少ないものの、上記の理由により乳幼児では重篤な症状の原因となる可能性が高いことから、予防が重要です。予防にはワクチン接種が有効で、Hibワクチンが平成25年4月から定期接種化されました。厚生労働省によると、重篤な疾患を引き起こすリスクを95%以上減らすことができると言われています。接種回数は初回を接種する月齢により異なりますが、標準的なスケジュールは、生後2箇月から6箇月までに初回接種を開始し、合計4回接種します。詳細については、以下のホームページを御覧ください。

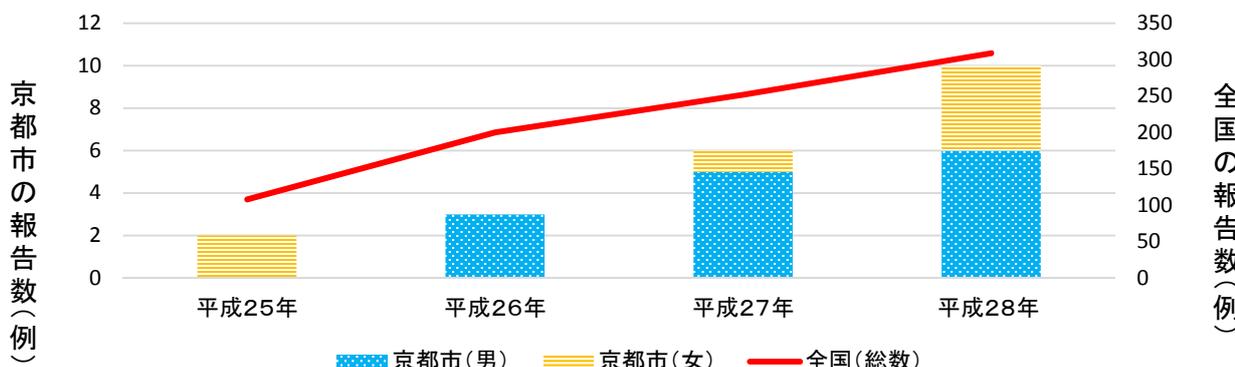
○京都市情報館「京都市が実施する定期の予防接種について(子どもの予防接種/協力医療機関検索はこちら)」

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130799.html>

(※1)厚生労働省ホームページ(<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou/pdf/110228-2.pdf>)から引用(平成29年3月30日閲覧)

(※2)厚生労働省ホームページ([http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/hib/](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/hib/))から引用(平成29年3月30日閲覧)

(図1)全国及び京都市の年別報告数(平成25年4月～平成28年末まで)

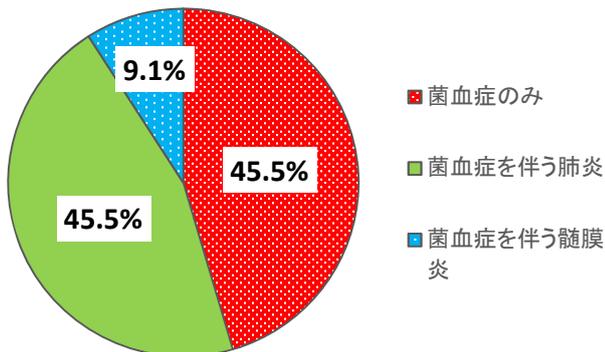


(表1) 莢膜株と型別不能株の違い

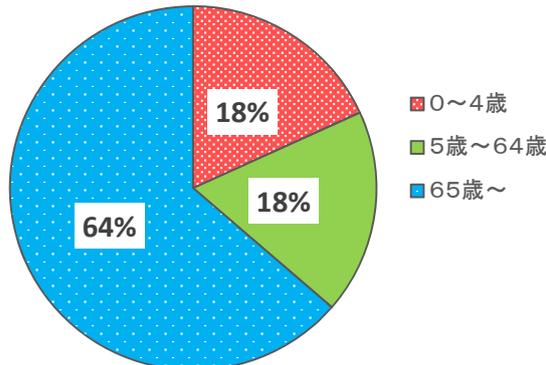
種類	特徴	備考
莢膜株	細菌の表面を覆う多糖(莢膜)を持つ。莢膜の構造の違いにより、a～fに分類される。	b型の莢膜を持つインフルエンザ菌b型(Hib)に対してワクチンがある。
型別不能株	莢膜を持たない。	これまでは主に気管支肺炎など下気道感染症のような非侵襲性感染症の起因菌として知られていたが、近年、本疾患の原因としての報告が増加している。

病原微生物検出情報(IASR) Vol.35 No.10(No.416)を基に作成

(図2)京都市における疾患別割合(平成25年4月～平成29年第12週)



(図3)京都市における年齢別割合(平成25年4月～平成29年第12週)



T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第12週

疾病,行政区別報告数

平成29年3月20日～平成29年3月26日

データ入手日:平成29年3月29日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	25	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	2	-	-						
上京	18	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-						
左京	44	-	-	5	32	1	-	-	2	-	-	2	-	-						
中京	22	-	-	1	11	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	17	-	-	-	11	-	-	-	2	-	-	-	-	-						
山科	34	-	-	6	3	1	3	-	-	-	-	1	-	2						
下京	9	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-						
南	30	-	-	2	13	-	-	-	1	-	-	-	-	-						
右京	42	-	2	13	26	-	-	1	2	-	-	4	-	1						
伏見	33	-	6	22	36	2	2	-	4	-	-	1	-	1						
西京	15	2	-	6	24	2	-	-	1	-	-	-	-	1						
京都市計	289	2	9	58	161	6	7	1	12	-	-	11	-	5	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎(※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(※3)	感染性胃腸炎(※4)	
男女合計																				
北	3.57	-	0.25	-	0.75	-	-	-	-	-	-	0.50	-	-						
上京	3.60	-	-	1.00	0.33	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-						
左京	6.29	-	-	1.25	8.00	0.25	-	-	0.50	-	-	0.50	-	-						
中京	4.40	-	-	0.33	3.67	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	5.67	-	-	-	5.50	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-						
山科	4.86	-	-	1.50	0.75	0.25	0.75	-	-	-	-	0.25	-	2.00						
下京	3.00	-	-	-	0.50	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-						
南	6.00	-	-	0.67	4.33	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-						
右京	5.25	-	0.40	2.60	5.20	-	-	0.20	0.40	-	-	0.80	-	1.00						
伏見	3.00	-	0.86	3.14	5.14	0.29	0.29	-	0.57	-	-	0.14	-	0.50						
西京	1.88	0.40	-	1.20	4.80	0.40	-	-	0.20	-	-	-	-	1.00						
京都市計	4.19	0.05	0.21	1.38	3.83	0.14	0.17	0.02	0.29	-	-	0.26	-	0.50	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

# 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第12週

年齢階級, 疾病別報告数

平成29年3月20日～平成29年3月26日

データ入手日:平成29年3月29日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	289	-	2	13	8	15	16	12	24	10	9	10	27	11	28	29	28	11	15	8	13
RSウイルス感染症	年齢3	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		9	-	-	1	2	1	3	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		58	-	-	11	7	6	7	5	3	6	-	6	2	2	3	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		161	-	10	25	18	23	18	7	10	10	1	4	7	3	25	-	-	-	-	-	-
水痘		6	-	-	-	1	1	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		7	-	1	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		12	-	6	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		11	-	-	-	-	1	1	4	-	1	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	1	-	1	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	4.19	-	0.03	0.19	0.12	0.22	0.23	0.17	0.35	0.14	0.13	0.14	0.39	0.16	0.41	0.42	0.41	0.16	0.22	0.12	0.19
RSウイルス感染症	年齢3	0.05	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.21	-	-	0.02	0.05	0.02	0.07	-	-	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.38	-	-	0.26	0.17	0.14	0.17	0.12	0.07	0.14	-	0.14	0.05	0.05	0.07	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		3.83	-	0.24	0.60	0.43	0.55	0.43	0.17	0.24	0.24	0.02	0.10	0.17	0.07	0.60	-	-	-	-	-	-
水痘		0.14	-	-	-	0.02	0.02	-	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.17	-	0.02	0.10	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.29	-	0.14	0.12	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.26	-	-	-	-	0.02	0.02	0.10	-	0.02	0.07	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	0.20	0.10	-	0.10	-
細菌性髄膜炎(※2)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成29年第12週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成29年3月29日

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		1,239	910	709	532	465	289
RSウイルス感染症		6	3	2	6	1	2
咽頭結膜熱		18	13	21	9	7	9
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		55	53	43	44	43	58
感染性胃腸炎		177	179	182	192	251	161
水痘		10	8	7	2	8	6
手足口病		14	11	10	5	3	7
伝染性紅斑		2	4	3	1	-	1
突発性発しん		17	15	16	14	11	12
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		6	4	3	-	3	-
流行性耳下腺炎		13	5	18	14	6	11
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		5	5	2	5	5	5
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		1,562	1,210	1,016	824	803	561

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市	男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)		17.96	13.19	10.28	7.71	6.74	4.19
RSウイルス感染症		0.14	0.07	0.05	0.14	0.02	0.05
咽頭結膜熱		0.43	0.31	0.50	0.21	0.17	0.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.31	1.26	1.02	1.05	1.02	1.38
感染性胃腸炎		4.21	4.26	4.33	4.57	5.98	3.83
水痘		0.24	0.19	0.17	0.05	0.19	0.14
手足口病		0.33	0.26	0.24	0.12	0.07	0.17
伝染性紅斑		0.05	0.10	0.07	0.02	-	0.02
突発性発しん		0.40	0.36	0.38	0.33	0.26	0.29
百日咳		-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.14	0.10	0.07	-	0.07	-
流行性耳下腺炎		0.31	0.12	0.43	0.33	0.14	0.26
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.50	0.50	0.20	0.50	0.50	0.50
細菌性髄膜炎 (※2)		-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-
合計		26.03	20.71	17.74	15.04	15.17	11.05

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。